

3.13.1 産業振興部門 事業化支援室

室長 佐々木 洋 ほか3名

情報通信ベンチャーに対する情報及び交流機会の提供

【概要】

Web等のオンライン・メディアやリアルな対面の場を最大限活用しつつ、情報通信ベンチャーの事業化に役立つ参考情報を提供することにより、困難ではあるが有望性があり、かつ、新規性・波及性のある技術やサービスの事業化を支援している。

(1) イベント・セミナーの開催

リアルな場でのイベント・セミナー（「ビジネスプラン発表会」等）を開催し、事業化に必要な知識の習得やベンチャー企業と大手企業の交流・マッチングを支援している。

また、起業を目指す若者に事業化の機会を提供する「起業家甲子園」を開催している。

(2) インターネット上での情報提供

インターネット上に開設したWebページ「情報通信ベンチャー支援センター」において、NICTの支援施策や全国のベンチャー助成施策の紹介など、情報通信ベンチャーに対して有益でタイムリーな情報を収集・提供している（図1）。



図1 情報通信ベンチャー支援センター

【平成23年度の成果】

(1) イベント・セミナーの開催

平成24年3月6日（火）に、日経カンファレンスルーム（大手町）において、起業を目指す若者に事業化の機会を提供する「起業家甲子園」を開催した（写真1～3）。昨年までは「頑張る高専ICTビジネスコンテスト」として高等専門学校（高専）の学生を対象にしていたが、今年を対象を大学生まで拡げ「起業家甲子園」として再スタートをした。当日は、連携先の大学や高専のイベントから選抜した、舞鶴高専、早稲田大学、京都大学、奈良高専、松江高専、金沢工業大学、東京大学大学院の学生グループ7チームによるプレゼンテーションが行われ、各出場チームには、協賛企業から特別賞やインターン権の授与、また、マッチングの提案があった。



写真1 会場風景



写真2 最優秀賞



写真3 受賞後の記念撮影

また、本年度のビジネスプラン発表会は、総務省ほかの後援をいただき、平成24年3月7日（水）に日経ホール（大手町）において開催した（写真4～6）。前日開催した起業家甲子園の最優秀賞チームによるプレゼンテーション後、一般応募から審査を通過した4社と、4地域（石川、大阪、岐阜、福島）のベンチャー支援機関からの推薦を受けたベンチャー企業4社によるプレゼンテーションのほか、会場内に設けた展示ブースでは、製品・サービスのPRが行われた。

なお、このビジネスプラン発表会には、351名の来場者が参加するなどICTベンチャー関係者等の交流が活発に行われた。



写真4 会場風景



写真5 大賞受賞



写真6 受賞後の記念撮影

その他、地域の有望なICTベンチャーを発掘・育成するため、総務省地方総合通信局等や地方ベンチャー支援機関等と連携し地域イベントの充実を図った。また、若手や学生の起業家を発掘・育成するため、大学等と共催し講演会や学生のビジネスプラン発表会を開催した(表1)。

表1 イベントの開催状況

イベント・セミナー		開催件数	参加人数(延べ)
開催件数及び参加人数の合計		22件	1,252人
内 訳	《ビジネスプラン発表会》 ベンチャーにビジネスプラン等の発表機会を提供し、メーカー、ベンチャーキャピタルなどとマッチングを促進	1件	351人
	《起業家甲子園》 大学及び高専生にビジネスプラン等の発表機会を通して、実ビジネスの擬似的体験を提供	1件	45人
	《地域連携イベント》 地域支援機関と連携して、ビジネスプラン発表会等を開催し、地方発の有望なICTベンチャー企業を発掘	9件	408人
	《エントリーイベント》 全国の大学及び高専等と連携して、ビジネスプラン発表会等を開催し、若手起業家候補生を発掘	9件	406人
	《マッチングイベント》 NICTの研究成果の社会還元を促進	2件	42人

(2) インターネット上での情報提供

利用者の利便性の向上を図るため、一般的な情報の提供を廃止し、利用者から要望のあったICTベンチャーに有益なイベント助成情報等の充実、Facebookページの開設などWebページを刷新した。また、約5千名のニュース配信会員に対し、定期配信(2週間に1回)及び臨時配信を行い、情報通信ベンチャーに有益でタイムリーな情報の提供に努めた。

(3) アンケート調査及び意見の反映

イベントごとに行った参加者へのアンケート調査では、96.1%の回答者から肯定的な回答を得るとともに、平成22年度のアンケート調査結果から得られた意見・要望を業務運営やイベントのテーマ選定に反映させた。